

西脇小学校の歴史

- 1901 前身3校が統合され津万尋常高等小学校が現在地に設立される
- 1917 西脇尋常高等小学校に改称
- 1928 講堂竣工(設計:内藤克雄)
- 1934 第一校舎竣工(設計:内藤克雄、施工:正木組)、続いて第二第三校舎が竣工(校舎新築費6万5千円)
- 1952 西脇市制が施行、西脇市立となる
- 1954 現在の校門鉄扉が有志により再建
- 1980 体育館の完成により講堂取り壊し(車寄せは体育館南面に移設)
- 1989 校舎の大改修:玄関前の石階段、玄関ホール床などが撤去され図書室等の拡張など全面的な改修が行われる
- 2012 西脇小学校耐震診断が行われ、建替の方針が提出される
その後市民・関連学会等から校舎の保存要望活動がおこる
- 2014 校舎基本計画検討委員会設置、木造校舎の存否について諮問
- 2015 同委員会から3棟保存の答申提出
西脇市と神戸大学との連携協定が行われ西脇小学校の保存・改修計画が始まる
- 2016 西脇小学校改修基本計画・設計方針を西脇市に提出、実施設計を経て2017年6月から保存改修工事着工
- 2019 計3期の工事期間を経て木造校舎の保存改修工事が完了
- 2020 外構工事等全工事が完了
- 2021 木造校舎3棟他付属建物が国重要文化財に指定される



西脇市は江戸時代から「播州織」の産地として知られていますが、産業の興隆もあって就学人口が増加し、1934年から1937年にかけて現在の3棟の2階建ての木造校舎とその付属建物が新設されました。

第一校舎の南側に建てられた当初の講堂(1928年竣工)は取り壊されましたが、玄関の車寄せ部分だけは現在の体育館の南側に移設されています。

3棟の校舎と渡り廊下、東西の便所は、2017年からの工事により保存・改修され、現役の校舎として使われ続けています。2021年には全国に残る木造校舎として貴重な存在であるという評価を受け、国の重要文化財に指定されました。

設計は地元の建築家・内藤克雄(1890-1973)が担いました。内藤克雄は近在の市町だけでなく広く県下でも多くの建物を設計しましたが、現在残っている建物は少なく、この西脇小学校は彼の代表作といえるものです。

西脇小学校校舎は第一校舎こそ中央に腰折れ屋根を架し、半切妻

破風の下部には少し和風の趣のある車寄せを設けるなど瀟洒な洋風校舎の構成をとっていますが、背後の2棟はこの時期に全国で建てられた大規模校舎と同様の標準的な外観となっています。

白色の下見張りのスレート材の外壁を青色に塗られた付柱と窓を縁取る水平材を規則的に繰り返し、外観のアクセントとしています。

一方、内部の教室や廊下、階段は塗装を施さず、素地のままの木材が多く用いられています。内部は全国の木造校舎により近い雰囲気をもっているといえるでしょう。

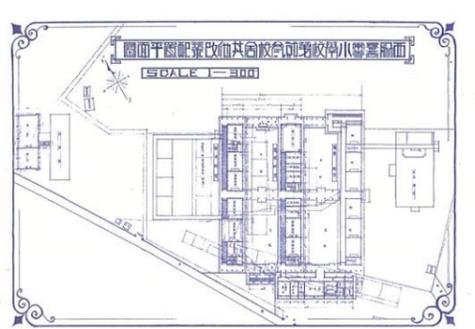
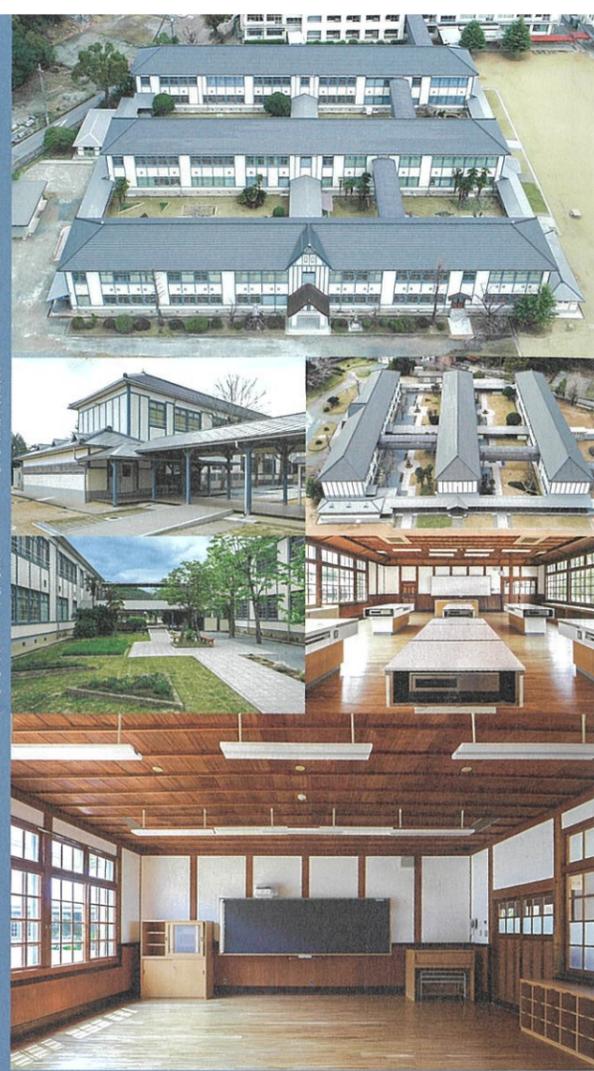
3棟の校舎を結びつけている東西と中央に位置する3列の渡り廊下も西脇小学校の魅力の一つです。渡り廊下に挟まれた中庭には瓢箪池や花壇が造られ、植樹された種々の樹木は大きく成長し、児童達の憩いの場となっています。

建物概要・特徴

校舎概要

構造・形式 | 木造二階建 | 桁行65.45m・梁間9.55m・軒高8.93m・棟高12.03m
 建築面積 [改修工事完了後] | 木造第一校舎 | 635.99㎡
 第二校舎 | 624.70㎡
 第三校舎 | 630.09㎡
 東便所・西便所・渡り廊下など | 計565.19㎡
 新設2階渡り廊下 | 計150.54㎡

延面積 | 全木造校舎 | 3,748.2㎡
 屋根 | 洋小屋寄棟造一部腰折れ屋根金属瓦葺、車寄せ部分は銅板一文字葺
 外壁 | スレート下見張り、一部漆喰塗り
 基礎 | 無筋コンクリート基礎にRC造基礎補強
 内部 | 漆喰塗り・柱・天井は素地仕上げ、主要木部はオイルステイン塗り
 工期 | 2017年6月-2020年3月



- [上から]
 ●鹿野町ふれあい館(旧公民館) | 年代不詳 | 西脇市
 ●旧来住家洋館 | 1936年(昭和11年) | 西脇市
 ●内藤家洋館(旧内藤事務所) | 1935年(昭和10年) | 小野市
 ●旧柏原町役場 | 1933年(昭和8年) | 丹波市

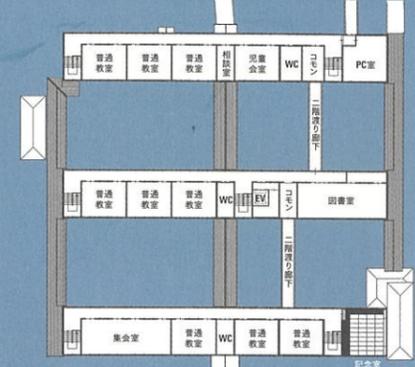


設計者の内藤克雄(1890年|明治23年-1973年|昭和48年)は、兵庫県立工業学校を卒業後、兵庫県庁に勤め、建築技師としての経験を積み、1914(大正3)年に独立して設計事務所を設立しました。

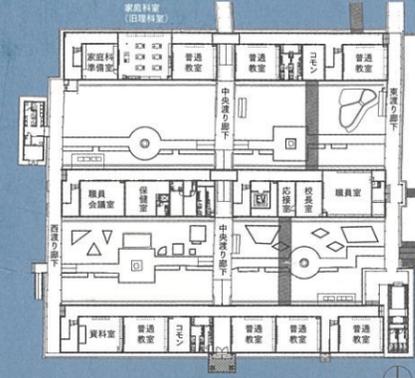
内藤事務所は現在も活動を続けていますが、内藤克雄存命中だけでも、旧加東郡、加西郡を中心に戦前期から戦後にかけて800件近い建物を設計しています。多くの建物は取り壊されており、また、現存するものの多くも老朽化等による改修が施され、建設時の姿を留める建物としては、市内では西脇小学校、鹿野町ふれあい館、旧西脇消防屯所(現西脇市消防団第1分団本部)、旧来住家洋館が、また西脇市外では、旧小野小学校講堂(現小野市立好古館)や旧柏原町役場(現丹波市役所柏原支所)などが現存するのみです。



設計者 内藤克雄

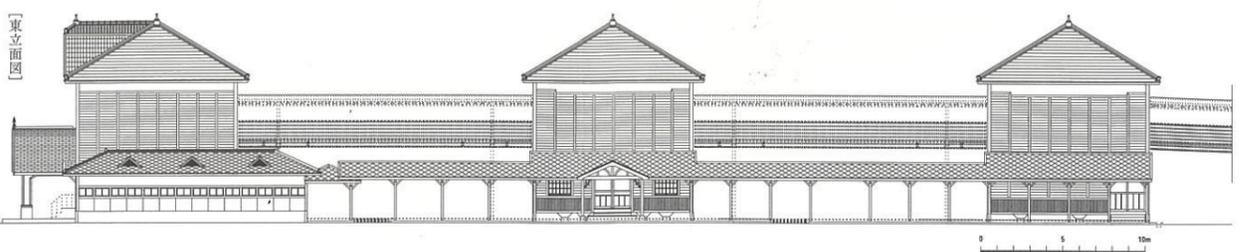
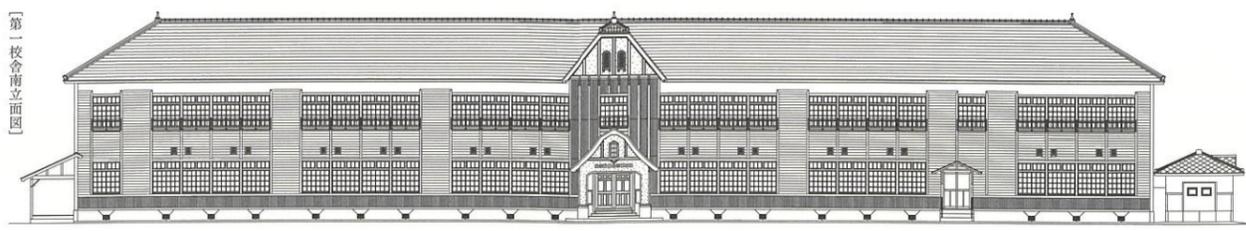


【二階平面図】



【一階平面図】

改修工事の概要



現西脇小学校校舎は耐震性の欠如と老朽化を理由に一旦は建替え計画が公表されましたが2014年に計画を白紙に戻し、諮問委員会の答申を受けて今回の保存改修工事が行われました。諮問委員会の答申内容の概略は次のとおりです。

- 1. 十分な安全性を確保できるよう耐震補強工事を行う (Iw 値=1.1の確保)
2. インクルーシブな教育環境の整備
3. 安全性・快適性・維持管理等の向上
4. 長期的な見地からの校舎全体の整備と木のぬくもりや歴史的な面影の継承

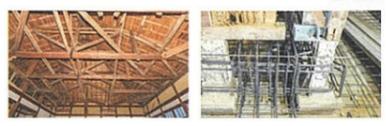
構造補強

地震や大型台風に耐えるための十分な構造補強を行いました。主な補強としては基礎補強、内外壁、床、屋根の補強、地盤改良が挙げられます。基礎補強 | 無筋コンクリートであった既存の基礎の内側に新たに鉄筋コンクリート造の布基礎を設け、柱に加わる力を受け止めることができるようにしました。

壁補強 | 内外壁に構造用合板を張ることで耐震性能を飛躍的に高めています。地盤改良 | 地盤が弱かった第三校舎の東半分について高圧噴射攪拌工法による地盤の改良を行いました。

防火対策

防火対策としては教室から教室への延焼防止のために南北の壁と小屋裏を防火壁としています。さらに各棟の1・2階の廊下に消火栓を設け、避難についても2方向避難を確保しています。また、不慮の事故を防ぐために外壁に用いられていたアスベストを含むスレートを安全な材料に張り替え、外部に面した窓ガラスは全て強化ガラスを用いました。



教育環境の改善

衛生設備 | これまで東西の外部便所しかなかった衛生設備を改善するために各棟・各階全てに手洗い場と便所を設けました。空調設備 | 全ての教室に空調設備を設けています。特に教室の空調設備はこれまでの雰囲気を変えないように天井裏に設置しています。

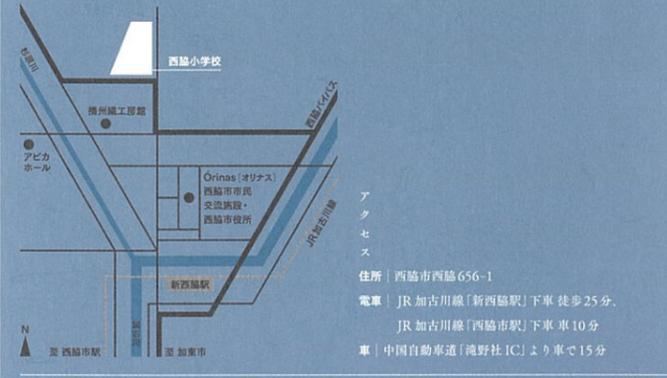
校舎全体の気密性とセキュリティの確保 | これまで吹きさらしであった廊下に建具を設けることにより、気密性を確保と外部からの不審者の進入に備えました。教育機器の改善 | 普通教室には全て昇降黒板とプロジェクターを設置し、LAN・WiFi環境を整え、放送設備を充実させました。

バリアフリー化 | 東西及び中央の渡り廊下にウッドデッキとスロープを設け、外部及び各棟の1階廊下へと段差無くアクセスできるようにするとともに、第二校舎に設置され

たエレベーターと各棟を結ぶ2階渡り廊下によって全棟・全フロアのバリアフリー化を達成しています。使い勝手の向上 | 教室の外にまで溢れていたランドセルや身の回りの持ち物を整理しやすくなるために収納棚を拡充。これまで廊下にあった靴箱を室内に設置しました。

当初の輝きを取り戻す修復

西脇小学校校舎は格段に特殊な校舎ではなく全国的な就学児童の増大への対処としてこの時期に建てられた標準的な平面をもつ大規模校舎です。しかし、教育環境としての安全安心・充実が図れないという理由から多くは取り壊されてきました。西脇小学校は利用し続けられている生きた遺産 (Living Heritage) として、安全安心の確保や教育環境の充実を図ることで利用価値と文化財価値を両立させることを目指しました。



西脇小学校改修工関係者
総合監修 | 足立裕司 基本設計 | 西脇小学校保存・改修基本計画グループ 実施設計 | 校舎改修 | 株式会社内藤設計+足立裕司 木造校舎構造設計 | 豊嶋弘文 [カナタ構造設計] 2階渡り廊下設計 | 遠藤秀平+萬田隆構造設計事務所+株式会社内藤設計 工事監理 | 株式会社内藤設計+足立裕司 木造校舎工事施工 | 株式会社吉住工務店 外構工事施工 | 株式会社フジエ工芸 防音調査/工事協力 | 住友ゴム工業株式会社 騒音調査協力 | 日本建築総合試験所
問合せ | 西脇市教育委員会教育総務課 | tel: 0795-22-3111 | kyouiku@city.nishiwaki.lg.jp
発行 | 西脇市教育委員会 発行日 | 2022年2月 編集 | 足立裕司 デザイン | 坂田玲央 印刷 | ウェスタ印刷(株)



since 1934